



店舗を構えて37年。ずっとこのカウンターから移り変わる三芳町を見守ってきた。

①自慢の団子を手笑顔に見せる本間さん。②藤久保小学校の児童が学習見学に。お礼のメッセージを寄せた。③どれも良心的な価格。



元気の牽引役、伊勢屋。取り扱っている商品は団子や饅頭、ようかんなどの和菓子のほか、おにぎり、赤飯なども並びます。一押しは団子。「季節によって2種類の粉の配合を変えて混ぜます。前日の天気予報を見て、長年の経験から得た「勘」と「感覚」でその割合を決めるんです」とこだわりを語る本間さん。

こだわりと品質。ディスプレイに陳列された商品の値札を見ると、思わず目を疑います。「こんなに安いのか？」と目を丸くして言うお客さんがいます。大型店に勝つには個人店の強みを出さしかない。毎日朝5時に仕込

良心的な値段

「商店会は元気ですよ」と力強く話す本間さん。商店会長を通算10年以上務め、商店会や地域を盛り上げようと、七夕まつりや福引きなどを実施してきました。現在は10月の1か月間「商店街ギャラリー」と題し、各店舗ごとに絵画の展示を行っています。こうした取り組みが評価され、藤久保中央通り商店会は、昨年埼玉県から元気な商店街のお墨付き「黒おび商店街」に認定されました（ページ左下）。

地域に密着 藤久保中央通り商店会

元気な商店街「黒おび商店街」に認定。



→黒おび商店街認定証の喜びを商店会の皆さんで分かち合いました。

埼玉県内の「商店街の主催で、3種類以上の異なる共同事業を継続的に実施」「我こそは、「黒おび商店街」（元気な商店街）であると自信をもって宣言」する商店会を対象にした「黒おび商店街」に藤久保中央通り商店会が昨年、埼玉県から認定されました。藤久保中央通り商店会は「商店街ギャラリー、花いっぱい運動、歳末感謝セール」を開催するなど、町の活性化のために活躍しています。

ふるさとの味

37年間、カウンターから三芳町を見守り続けてきた本間さんの手によって作られ、守られてきたふるさとの味。「小さなころ、団子のおじちゃんのを買って食べてました。まだやっつてるのかって覗いてみたらやっつて嬉しかった。またお団子をください！」と言ってくれる人がいます。話を

聞くと、帰省しているとのこと。三芳町を離れても、覚えていてくれるのがとても嬉しいですよ」と話す本間さん。

地域の人にとって、本間さんが作る和菓子は「ふるさとの味」になっています。「私には和菓子を作ることにしかできません。だから品質や味に誇りを持っています。体が続く限りは和菓子を作り続けて、地域のふるさとの味を守り、商店会をみんなで力を合わせて盛り上げ、元気にしていきたいです。」

伊勢屋と共に商店会を散策してみたいかがでしょうか。■

地域に愛され続ける商店会

ふるさとの和菓子屋さん。

昔ながらの味を守り続けて37年間。
藤久保で和菓子屋を営む「伊勢屋」の味力に迫ります。



米 伊勢屋
住所：三芳町藤久保 100-18
電話：049-258-8245

東

武東上線の鶴瀬駅
西口から南西に約
900メートル。

「通勤通学に向かう人を見てみると、子どもの数が減っているように感じますね」と話すのは、藤久保中央通り商店会で昭和54年から37年間、カウンターから三芳町を見守り続けている和菓子屋「伊勢屋」の店主、本間健二さん（72）。生まれは新潟県柏崎市、育ちは東京都大田区の大森。その地の和菓子屋で修行をし、35歳のときに現在の場所まで店舗を営むようになりました。

「当時はマミーマートを中心に活気があり、商店会には40店舗もありました。現在は23店舗ほどになりましたが、まだまだ

まだまだ元気な商店会

